

# 企業防災訴え続ける

## 七十七銀女川支店遺族・田村さん



小沢孝之さんの慰霊碑に大好きだったビールを供える田村孝行さん＝12日午前11時5分ごろ、群馬県上野村

## 8度目の慰霊登山

東日本大震災の津波で勤務中に亡くなった田村健太さん(当時25)の父孝行さん(62)が12日、群馬県上野村の「御巣鷹の尾根」に慰霊登山をした。災害や事故の関係者と悲しみや痛みを分かち合い「失った大切

な人の命を生かし、命を第一に考える社会をつくる」と企業防災の重要性をかみしめた。2015年に始めた慰霊登山は8度目。12日午前、険しい山道を踏みしめて、山頂付近に点在する慰霊碑

の前で祈りをささげた。

長男健太さんは宮城県女川町の七十七銀行女川支店で勤務中に津波の犠牲になった。震災後、妻弘美さん(60)と人命最優先の企業防災、職場づくりを訴え続け、全国の事故や災害の慰霊に出向く。

「元氣そうだな」。孝行さんが声をかけたのは墜落事故の遺族、兵庫県芦屋市の会社員小沢秀明さん(37)。父孝之さん(当時29)を墜落事故で亡くした秀明さんは母紀美さん(67)と慰霊を続ける。

秀明さんらとは2度目の慰霊登山の時に出会った。それ以来、ほぼ毎年、尾根で再会し、孝之さんの慰霊碑に大好きだったというビールを手向ける。

健太さんと秀明さんは同学年。孝行さんは「親のような気持ちで息子と重ね

て見てしまっ」。秀明さんは「父と名前の読みが同じ。縁あって顔を合わせられるのがうれしい」とはにかみ、紀美さんは「孝行さんは家族だからね」と笑った。

現地には06年のシンドラー社エレベーター事故の遺族をはじめ、各地の事故や災害の遺族が集い、語り合う。墜落事故の遺族組織「8・12連絡会」の事務局長、美谷島邦子さん(76)は「この山から遺族は痛みや思いを共有し、活動の輪を広げている」と語る。

孝行さんは「今後も遺族たちとつながり一人一人の命の大切さを発信し続け、安全への高い意識を社会に芽吹かせたい」と誓う。

(石巻総局・山老美桜)